

近現代史(22) 「アジア諸地域の動揺② ～南アジアの植民地化～」

○今回のポイント

【西欧勢力の進出とインドの植民地化】

(1)インド洋世界における西欧勢力の登場

- ①西欧勢力進出以前[1. _____]の形成。ムスリム商人・インド商人の活躍。
- ②15世紀末～：[2. _____]によるインド直接航路の発見⇒ヨーロッパ商業勢力の登場

(2)インドにおける商品経済

- ①17～18世紀インド…[3. _____]の発展を背景として、各地で政治・経済活動が活発化し、地方政権が力をつけていった時期。
- ②対外交易の拡大と金・銀の流入による社会構造の変化
 - ・ a)東インド会社の進出…インド産綿布の獲得⇒[4. _____](マドラス・ボンベイ・カルカッタ)建設⇒金銀の流入
 - ・ b)影響…従来の[5. _____]の現物での分配を基礎とする経済構造に大きな変化

(3)インドの植民地化

①ムガル帝国の衰退

○[6. _____]：ムガル帝国最大領域を実現するが・・・

↓

a.都市・農村で活発化した商品生産に関わろうとしない

b.ジズヤの復活やヒन्दゥー教弾圧で反発を招く

}

地方政権の台頭
帝国の分裂傾向

○死後、ムガル帝国は支配領域をまとめてゆく政治的な力を失っていき、ムガル皇帝は名目的な存在と化す。

②18世紀[7. _____]

※イギリスとフランスがヨーロッパおよび各植民地での覇権をめぐる抗争を繰り返す。

- ・ インドでは英仏両東インド会社がインドの土着勢力と結びつきヨーロッパの戦争と連動して抗争。

{

・ [8. _____](1774～)…南インド東岸での3次にわたる英仏の戦い。英が勝利し、付近の王侯を屈服させた。

・ [9. _____](1757)…イギリス東インド会社軍が、フランス・ベンガル太守連合軍を撃破した戦い。フランス勢力はインドから駆逐され、イギリスのインド支配が本格化した。(10. _____の活躍)

☆植民地獲得戦争において軍事力と資金力にまさるイギリスの勝利。

※1763[11. _____](【仏⇒英：ミシシッピ以東のルイジアナ、セネガル、ドミニカ】【西⇒英：フロリダ】)

③イギリスのインド進出

a.19世紀半ばまでにインド全域を支配することに成功

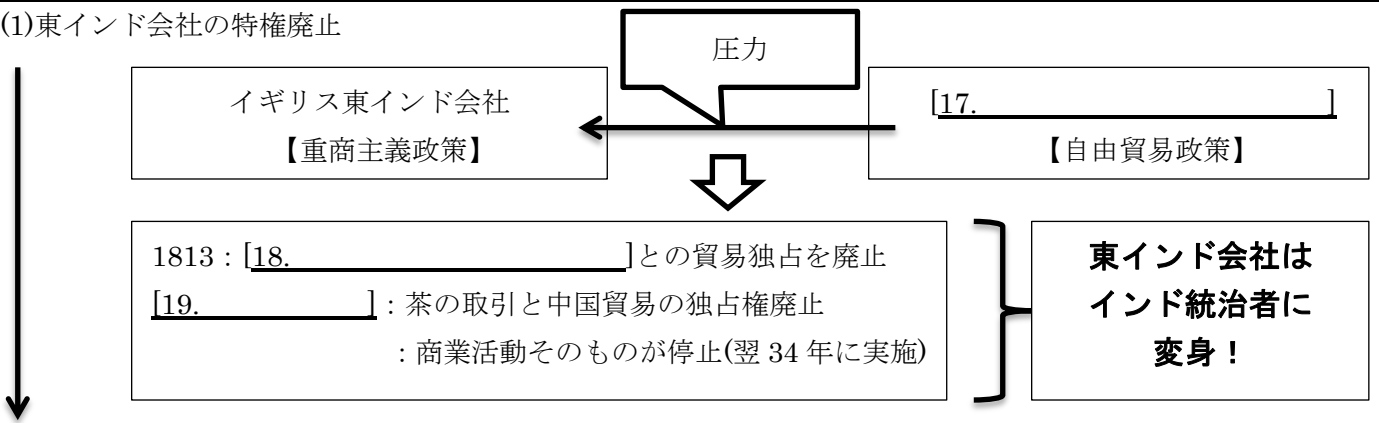
1765	[12. _____]	獲得
1767-99	13.	南インドのヒन्दゥー教地方王権との戦争
1775-1818	14.	デカン高原西部ヒन्दゥー教マラーター諸侯の封建的連合体との戦争
1845-49	15.	西北インドのシク王国との戦い

b.インドの政治的植民地化

⇒「16. _____」による間接統治と「直接に支配する体制」!

【植民地統治下のインド社会と大反乱】

(1) 東インド会社の特権廃止



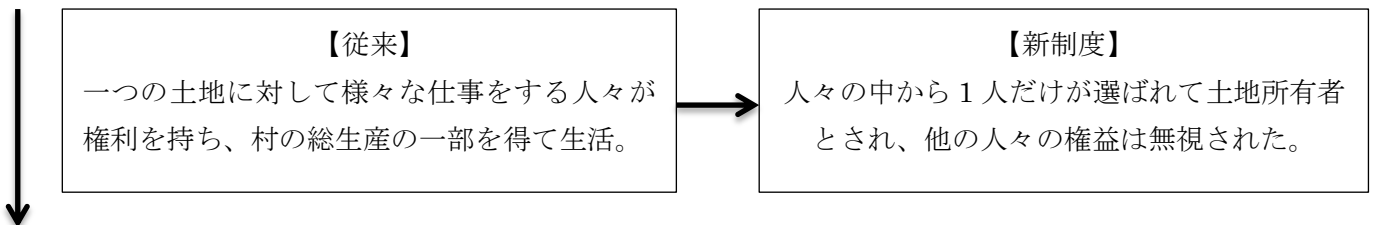
(2) 地稅徴収

☆植民地政府の最大の目的：より多くの富を効率よく収奪すること。最大の収入源は[20. _____]

① [21. _____]…仲介者に土地所有権を与える見返りに農民から地稅を徴収させる。

② [22. _____]…仲介者を排除して農民に土地保有権を与え、政府が直接徴稅。

(3) インド社会の変化



(4) [23. _____]へ転落

【世界に誇るインド産綿布】⇒【産業革命】⇒【英国機械制綿布】⇒ [24. _____]

(5) インド大反乱

☆インド人傭兵 ([25. _____]) の乱から全民族的なインド大反乱へと発展!

・直接的契機：新式銃の弾薬包(口で噛み切る必要があったが、牛と豚の脂が塗布してあった)

・間接的要因：[26. _____]により没落した旧支配層の不满。

: 植民地支配の安定によるシパーヒーの解雇に対する反感

(6) [27. _____](1858)

・イギリス軍がムガル皇帝を 1857 年に捕え、翌年ビルマに流刑にしたため、名実ともに滅亡した。

(7) インド帝国の成立

① [28. _____](1858)

・東インド会社のシパーヒーの乱での失政を見て、イギリス議会在新しいインド統治法を定めて解散させ、本国政府によるインド直接統治が開始された。

② インド帝国の成立

・中央アジアからのロシアの南下を警戒するディズレーリはインド統治の確立を世界に示す必要からインド帝国の建国を急ぎ[29. _____]をインド皇帝として即位させ、インド帝国が成立した。

・分割統治…従来の強圧的な政策を改め、保守的な藩王国を懐柔して民族運動抑圧のために利用する政策をとったり、宗教やカースト上の差異を利用したりする政策を取った。